

令和5年度 大分県普及指導活動外部評価結果

1 外部評価の目的

普及指導活動を一層効果的に実施するために、振興局及び農業革新支援センターで実施した普及指導活動の成果等について、幅広い外部の視点から客観的な評価を受け、その結果を次年度以降の計画に反映させることを通じて、普及指導活動及びその体制の改善を行う。

2 外部評価の対象

(1) 対象年度

令和4年度及び令和5年度の普及指導活動

(2) 評価項目

普及指導課題の設定、普及指導計画の作成、普及指導活動の経過と成果、普及指導活動体制

(3) 対象課題

県下6振興局から各1課題、広域普及指導員（農業革新支援専門員）1課題の計7課題

3 外部評価委員

8名（先進的な農業者、農業関係団体、消費者、マスコミ、民間企業）

4 評価結果

(1) 課題別

所属	課題名	課題の設定	計画の作成	経過と成果
東部振興局	力強い酪農業の育成	優れている	優れている	優れている
中部振興局	高糖度かんしょ「甘太くん」の産地育成とブランド化	優れている	優れている	優れている
南部振興局	将来を担う稼ぐ経営体の確保・育成	優れている	優れている	優れている
豊肥振興局	将来を担う稼ぐ経営体の確保・育成	優れている	優れている	優れている
西部振興局	なしブランド産地育成と園地の活用	優れている	優れている	非常に優れている
北部振興局	こねぎブランド産地の育成	優れている	優れている	非常に優れている
広域普及指導員	強いピーマン産地の形成と商品（もの）づくり	優れている	優れている	優れている

(2) 総合所見

課題名	組織的かつ継続的活動体制	関係機関との連携状況
普及指導活動体制	優れている	優れている

5 外部評価委員による意見、改善の提言等

別添「(様式4号)普及指導活動改善内容整理表」参照

普及指導活動改善内容整理表

(所属名) 東部振興局

<p>【課題名】 力強い酪農業の育成 (酪農の経営環境の変化に対応した普及活動)</p>
<p>【外部評価委員の意見、改善の提言等】</p> <ul style="list-style-type: none">・労働力軽減のため機械導入は必須だが、経営状況を見据えた導入後の指導をしっかりとやってほしい。・地域の酪農業全体の状況を把握し、方向性や品質目標を設定する必要があるのではないかと。
<p>【意見、提言に対する対応方向等】</p> <ul style="list-style-type: none">・導入後に課題が発生した場合の解決もしっかりとやっていきますが、導入後に課題が発生しないよう事前の技術の特徴や導入方法の普及指導を十分に行なっていきます。・個人の状況のみならず地域や国内外の情勢を見極めつつ、県における目標設定や地域にあわせた方向性や生産性、品質等の目標を設定し、取り組みを行なっていきます。
<p>【質問事項】</p> <ul style="list-style-type: none">・様々な普及指導を実施した結果がどうなっているか、最新の状況を知りたい。
<p>【回答】</p> <ul style="list-style-type: none">・コロナ渦、資材高、減産型計画生産という厳しい経営環境の中で、このような取組の結果、取組前と比べて、生乳生産量が10%以上増産した農場が3農場ありました。今後、このような農場の成果も含めて、各農場の改善に取り組み、地域全体の目標に向かい普及指導活動に取り組みます。

普及指導活動改善内容整理表

(所属名) 中部振興局

【課題名】 高糖度かんしょ「甘太くん」の産地育成とブランド化
(臼杵市野津町の「甘太くん」産地における産地拡大支援と
持続可能な大規模経営体の育成に向けた取り組み)

【外部評価委員の意見、改善の提言等】

- ・かんしょは重量野菜であるため、収穫作業を軽減する方法を検討していただきたい。

【意見、提言に対する対応方向等】

- ・収穫作業を軽減する方法の一つとして、大規模経営体には引き続き大型収穫機械の導入を推進していきます。また、収穫後のコンテナ積卸し作業の軽減としてこれまでにアシストスーツや簡易クレーン等を検討しており、今後も関係機関と連携して引き続き作業軽減策を検討していきます。

【質問事項】

- ・農業機械の導入においてリース活用は考えていないのか？
- ・他県で病気発生が広がっているが対応策はどのように考えているか。

【回 答】

- ・かんしょ関連機械のうち「つるきり機」「掘取機付トラクター」「掘取機」は全農おおいで農機レンタルができる体制がすでに整っております。一方で大型収穫機についてですが、臼杵市野津地域では生産者が多く、収穫作業時期が重なるため、県内でのリース活用は難しいと考えております。県外からの農機レンタルはサツマイモ基腐病の持込リスクがあるため考えておりません。
 - ・サツマイモ基腐病は、R6年2月現在、全国34都道府県で発生していますが、大分県では未発生のため、病原菌を圃場に「持ち込まない」対策が重要と考えています。健全な種苗を確保することが重要であるため、県では「サツマイモ基腐病」に関する注意喚起のチラシを作成し、苗を取り扱っている種苗店やホームセンター、かんしょを販売している直売所での掲示等を行い安全な苗を使用するよう県民への周知を図っています。
- 「甘太くん」については毎年ウイルスフリー苗から増殖した苗を使用しているため、病原菌が持ち込まれるリスクはありませんが、甘太くん以外の品種を栽培している生産者には引き続きチラシ配布や個別訪問により指導を行っていきます。

普及指導活動改善内容整理表

(所属名) 南部振興局

【課題名】 将来を担う稼ぐ経営体の確保・育成 (新規就農者の確保・育成に向けた支援体制の構築について)
【外部評価委員の意見、改善の提言等】 <ul style="list-style-type: none">・いちごの事例が多いようだが、新規就農フェアを活用して、柑橘などその他品目でも新規就農者を継続的に募ってほしい。・地域の農業青年組織との連携強化を図った方が良い。
【意見、提言に対する対応方向等】 <ul style="list-style-type: none">・いちごに限らずファーマーズスクールの対象品目（いちご、にら、ハウスみかん、ホオズキ・スイートピー、キク、トルコギキョウ、野菜（有機栽培））については、募集活動を行っています。引き続き、柑橘などその他品目も含め新規就農者の確保に努めていきます。・地域の農業青年組織「エコ・エリア21」への加入推進や「エコ・エリア21」を含む生産者と新規就農者の意見交換会を実施しています。今後も引き続き農業青年組織との連携強化を図っていきます。
【質問事項】 <ul style="list-style-type: none">・就農コーチへの報酬はどうしているのか？
【回答】 <ul style="list-style-type: none">・大分県産地が取り組むファーマーズスクール等支援事業（県単事業）を活用し、就農コーチへ謝金を支払っています。

普及指導活動改善内容整理表

(所属名) 豊肥振興局

【課題名】 将来を担う稼ぐ経営体の確保・育成 (豊肥地域における新規就農者確保・育成の取り組み)
【外部評価委員の意見、改善の提言等】 ・新規就農者の住居確保は依然として難しい問題であり、早急な対処を願う。
【意見、提言に対する対応方向等】 ・就農研修から経営安定までの技術面の支援と併せて、移住等の生活面についても、産地一体となり支援を行ってきました。 移住を伴う新規就農者の住居確保が困難な状況は続いていますが、本年度取り組んだ民間を含めた賃貸アパート確保の取り組みや、農地と住居をセットとした地域ぐるみでの就農支援体制構築に取り組む等、様々な手法により引き続き住居確保支援を進めていきます。
【質問事項】 ・本格就農後のフォローについてはどのような体制になっているのか。
【回答】 ・関係機関(県、市、JA)で構成する就農サポート会議を定期的を開催し、新規就農者の情報を共有・フォローを実施する体制をとっています。 具体的には、本格就農後、特に重要になる技術なフォローは、主として生産流通部の普及指導員およびJA指導員が連携して実施しています。 営農状況や生活面についてのフォローは、主として農山村振興部の普及指導員と市担当部署が連携して対応しています。 (その結果得られた情報等を就農サポート会議で共有し、早期経営安定に生かす) また、就農前後には人間関係や農業経営に関することなど様々な不安を感じている新規就農者も多いことから、新規就農者同士や指導農業士等の先輩農家との意見交換会を実施する等、メンタル面のサポートにも取り組んでいます。

普及指導活動改善内容整理表

(所属名) 西部振興局

<p>【課題名】 なしブランド産地育成と園地の活用 (日田梨創造的復興プロジェクトによる「日田梨」産地振興)</p>
<p>【外部評価委員の意見、改善の提言等】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 復旧と並行しての災害に強い産地づくりは苦勞も多いと思うが、ブランド確立へ向けて環境作りを期待する。
<p>【意見、提言に対する対応方向等】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 生産者の減少が予想される中で、産地の維持・拡大には担い手の経営面積拡大、新規就農者を確保する必要がある、そのためには機械化できる省力的な園地整備が必要となります。 リース団地では流線型仕立など早期成園化、省力化技術を取り入れ、品種では袋掛け無しで栽培できる早生～中生種(幸水、豊水、あきづき)を導入することでも省力化を図っています。 現在、新たなリース団地の基盤整備が始まっており、今後もこのような取り組みを進めていきます。
<p>【質問事項】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 日田梨のブランドは何なのか？この視点に基づいた全体の取組が大切である。
<p>【回 答】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 日田梨は、「四季を通して日田の梨」をキャッチフレーズに、光センサーを使って品質を保証できる形で、7月から12月まで長期間、多種多様な生産、出荷を行っており、九州を代表する産地として国内市場から信頼されています。 また、他産地に先駆けて輸出の取り組みを行っており、海外向けには大玉果実を振り向けることで、台湾、ベトナム等から絶大な人気を得ています。 今後も、これまで築き上げた日田梨ブランドを継続、発展させて行けるよう、支援していきます。

普及指導活動改善内容整理表

(所属名) 北部振興局

【課題名】 こねぎブランド産地の育成 (大分味一ねぎの産地拡大と担い手育成)
【外部評価委員の意見、改善の提言等】 ・資材高騰、人件費は今後どこでも課題になるため更なる活動の推進を期待する。
【意見、提言に対する対応方向等】 ・利用料の設定は収支計画の出荷計画に基づき設定されており、計画出荷量の確保が必要です。 ・計画出荷量の確保及び生産者の単収向上のため、令和6年1月に作成した「大分味一ねぎ栽培暦」に掲載されている収穫時期を考慮した播種計画に基づいた生産指導及び栽培管理指導を行うとともに、調整効率のさらなる向上に向け関係機関と協同して取り組みます。
【質問事項】 ・味一ねぎのブランドコンセプトがあると思うが何なのか？
【回 答】 ・「JA おおいた」のホームページには、以下のように掲載されています。 「大分味一ねぎ」とは大分県で生産される「小ねぎ」のブランド名のことで、大分県を代表するブランド野菜です。良質な有機物がたっぷりの肥沃な土で育った香り高い小ねぎで夏場は 60 日、冬場は 120 日とじっくり日数をかけて育てているので、ビタミン・ミネラルを多く含んだピカイチ美味しい小ねぎに仕上がっています。すなわち、「大分味一ねぎ」とは「味もピカイチ!」「香りもピカイチ!」な小ねぎです。 つまり、「味一ねぎのブランドコンセプト」は、「味」「香り」を考慮した生産(肥沃な土作りと土壌診断に基づいた施肥)から販売(「カット」ではなく「青果」)までを関係者が一体となった取組を実践していくことです。

普及指導活動改善内容整理表

(所属名) 地域農業振興課

【課題名】 強いピーマン産地の形成と商品（もの）づくり (ピーマンの単収向上に向けた取り組み)
【外部評価委員の意見、改善の提言等】 ・ 温暖化による夏期高温と長期化は避けられないと思われるため、現在研究が行われているハウス遮光などの対策についてはその成果をいち早く普及に移してほしい。
【意見、提言に対する対応方向等】 ・ 試験場における研究状況、各産地で取り組まれている各種現地試験の実施状況や成果に関しては、JA 営農指導員・県普及員合同で定期的を開催する担当者会議にて随時情報共有を行うとともに、各産地講習会等を通じて生産者への周知を図ります。
【質問事項】 ・ 生産者の成績の良し悪しの主な理由はどこにあるのか？ ・ 県とJAとの役割分担が分かりにくいのがどのようになっているのか？
【回答】 ・ 過去3年間で100名超と急激に新規栽培者が増加する中、新規栽培者の早期技術習得は大きな課題となっています。そのうち、就農学校やファーマーズスクール等の研修施設を介さず栽培開始した生産者は、研修を受けた人と比較して基本的技術の習熟が不足しているケースが多くなっています。 各地域で新規参入時の経路や研修施設との連携について整理するとともに、重点指導対象者を設定し、関係機関で連携して時期別の重点指導を行うことで技術習得支援を行っています。 ・ 県は技術の普及定着と経営指導、JAは営農指導および出荷販売という役割分担で活動していますが、現場における課題をすばやく共有し、生産者への指導を効率的に行うため、現地巡回指導は関係機関共同で行っています。